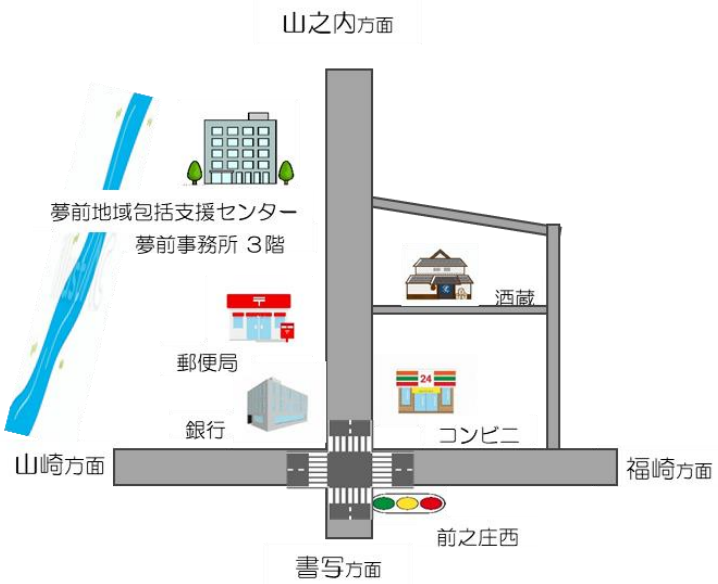
地域包括支援センター適正運営評価　基本調査票

【地域包括支援センター概要】

センター名称	姫路市夢前地域包括支援センター
法人名	医療法人社団　夢前会
統括責任者名	金田篤志
管理者名	廣瀬和枝
所在地	〒671-2103 姫路市夢前町前之庄2160番地（夢前事務所3階）
電話	079-290-8866
FAX	079-290-8867
メールアドレス	ymsk-houkatsu@hb.tp1.jp
ホームページURL	http://www.yumesaki-kai.jp/news/?p=1#1680151536-589088

【センターの案内】

センターまでの交通手段	神姫バス　バス停　前之庄から徒歩２分



【センターが所在する地域の特徴・特性】

・担当地域（置塩、古知、前之庄、莇野、上菅、菅生）は姫路市の北部に位置しており、夢前川、菅生川が流れ、自然が豊かな地域です。歴史も古く、温泉や歴史的建造物などの観光資源も多くあります。
・人口減少、少子高齢化が進んでおり、（R5.9高齢化率38.9%）山間を切り開いた新興住宅地では空き家も散見され、独居高齢者や高齢者のみの世帯が増えています。
・公共の交通機関がバスのみで、バス停・便数も少なく、車に乗れなくなると買い物や通院が困難な状況です。
・地域の横のつながりが強く、困った人があれば近隣住民が相談に来られることもあります。
・通いの場（いき百・認知症サロン）が人口割合から考えても多く活動していますが、後継者問題から存続が難しいところもあります。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

・地域の幅広い年代の方に、地域包括支援センターを知ってもらえるように、「包括だより」を年3回発行、地域の自治会回覧のほか民生委員や公民館などに持参しています。また、健康講座や地域の通いの場で啓発を行っています。
・通いの場の新規開拓、継続支援にも力を入れて、定期的な訪問を行い、「健康講座」として様々な健康情報をお知らせしています。
・地域の各種団体とのネットワークづくり（自治会長、民生委員、居宅介護支援事業所等）に取り組み、どこに相談があっても必要な機関に相談がつながる体制作りを目指しています。
・認知症になっても安心して暮らせるように、相談があった方には必要な支援につながるように、また、地域の方々が認知症について理解を深められるように、認知症サポーター養成講座を開催しています。

【令和5年度末の担当圏域の目指す姿】

・夢前地域の方が地域包括支援センターが高齢者の相談窓口であるということを認識し、必要な相談をすることができる。
・地域の方々が、介護予防の重要性を知り、通いの場に通うことで健康でいきいきと生活できる。
・ケアマネージャー等の支援者はお互いに連携することで、様々な相談に対して必要な支援先につなぐことができる。困難ケースは連携して支援にあたることができる。
・認知症になっても、その人が望む場所で安心して生活できる。周囲は認知症の人の対応を知ることで適切に対応できる。

地域包括支援センター適正運営評価　評価意見書（総評）

センター名称	姫路市夢前地域包括支援センター
実地調査日時	2024年　10月　15日
評価調査者名	力久恵弥 ・ 山本美津子 ・ 北野香

【第三者評価で確認した特徴的な取り組み、工夫点】

山や谷あいの集落と中心部の住宅街など、地理的な問題と高くなりつつある高齢者率、独居者の生活に関わる相談が多様化しています。事業を引き継がれて1年半、地域に溶け込み、地域住民に寄り添い総合的な相談業務を受けていくにあたり、全職員は、地域担当プラス専門職との連携で誰でも対応できることを目指して対応マニュアル、フローチャートの作成、また、社会資源のリストを全員で作成され相談に役立てながら日々業務に取り組んでおられます。認知症サポーター養成講座では、中学校1年生対象とした講座を実施されました。

【第三者評価で確認した次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

地域包括支援センターの相談窓口を整えることで、相談に来られた方が話しやすい環境づくりが望まれます。包括だよりやパンフレットは、今後、地域の医療機関、歯科医院、薬屋さん、金融機関、郵便局、個人商店など幅広い場所、地域住民への周知活動が期待されます。そして、事業所内研修では、現在の内容に加えて、地域性や実際に必要な内容を盛り込まれることが望まれます。認知症サポーター養成講座では、より若い世代、子育て世代への働きかけも求められます。通いの場の運営の継続とお世話係の後継者不足についても、地域性にも対応しながら少しずつ若い世代の協力者を増やしていくなど、この地域をより暮らしやすくするための工夫を期待します。

【市民(住民)からの意見やコメント】

地域包括支援センターの場所がわかりにくいです。夢前事務所3階で、看板や案内が少なく、知らない方にとっては、看板が少ないこと、事務所建物に入ってからも道案内がないので、わかりやすく案内してほしいと思いました。地域の関係機関とのつながりを大切にされていることや、関係機関との顔が見える関係があること、ターミナルケアや薬関係の研修もされていること、出向いての研修もされていることなど工夫されています。また、包括だよりの文字が少し小さいと感じます。認知症サポーター養成講座では、今後、小学生や若い方も対象とした講座の計画も期待します。

【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

・地域包括支援センターの周知度は十分とは言えず、今後もあらゆる機会に啓発に努めます。
・多様で複雑化する相談に対応できるよう、関係機関とのネットワークを構築し、マニュアルなどで相談体制を標準化し、研修に参加することで職員の資質向上にも努めていきます。
・地域包括支援センターの場所がわかりにくいとのことでしたので、夢前事務所と相談して案内表示の改善に取り組んでいます。

令和6年度姫路市地域包括支援センター適正運営評価調査票

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="7">評価項目・着眼点</td><td colspan="2">地域包括支援センターの体制確保</td></tr>
<tr><td colspan="2">（基本的な考え方）
地域包括支援センターは地域包括ケアシステムのコーディネーターとして、高齢者分野の困りごとを地域で受け止める役割を果たすものであり、地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割として地域で認識されることが必要です。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">①</td><td>地域包括支援センターの周知</td></tr>
<tr><td>地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割を持っていることを地域で認識されるようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>専門性を生かした地域包括支援センターの運営</td></tr>
<tr><td>専門知識、対応力を備えたセンターのスタッフの確保と人材育成を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③</td><td>地域包括支援センターの業務の効率化に向けた取り組み</td></tr>
<tr><td>オンラインミーティングをはじめとする業務のICT環境の整備や事業の整理・統合など、業務の効率化に向けた取り組み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">センター記入欄</td><td>取り組みの状況</td><td colspan="2">①地域包括支援センターの役割を地域の住民に周知していくために、「包括だより」を年3回発行。民生委員の定例会や地域の通いの場でも啓発しています。
②必要な人材を確保できるよう各方面に採用活動を行い、令和6年度は確保できた。職員の資質向上のために、研修会にはできるだけ参加し、研修内容をミーティングなどの機会を通して共有するようにしています。
③ZOOMミーテイングなどを活用できるようICT環境を整備しています。</td></tr>
<tr><td>現在課題と感じていること</td><td colspan="2">・地域の幅広い年代の方に、地域包括支援センターが介護サービスの相談先だけでない役割を持っていることを、引き続き周知していく必要があります。
・経験の浅い職員が多く、地域の人からの多様で複雑な相談に十分対応できるためには、人材育成や現任教育の方法を確立していく必要があります。</td></tr>
<tr><td>目標達成のための今後の取り組み</td><td colspan="2">・地域の方々と顔の見える関係づくりを進め、地域包括支援センターの機能や役割について啓発し、地域全体で介護予防に取り組む体制作りが必要です。
・経験の浅い職員が専門性を向上できるように、研修に参加させたり、市内の地域包括支援センターと連携して、人材育成のあり方について検討していきます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価調査者記入欄</td><td>評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点</td><td colspan="2">年間研修計画が作成され、計画に沿って研修に参加されています。また、人材育成計画を作成中で、組織的に人材育成の仕組みづくりが進められています。加えて、業務効率化として、共有フォルダが活用され、オンラインでの研修参加や意見交換などができるようにされています。</td></tr>
<tr><td>次のステップに向けた気づきや期待したい点</td><td colspan="2">定期的に実施される研修だけでなく、必要に応じた知識を獲得するために必要なより専門性の高い研修などに参加され、様々なケースに対応する力を育まれることに期待します。また、研修会だけでなく、OJT（職務を通じた研修）を活用するなど、法人の強みを活かした人材育成の仕組みづくりに期待します。</td></tr>
</table>

特定非営利活動法人　はりま総合福祉評価センター

令和6年度姫路市地域包括支援センター適正運営評価調査票

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">評価項目・着眼点</td><td colspan="2">基本目標1：生きがいを感じながら暮らすための支援の充実</td></tr>
<tr><td colspan="2">（基本的な考え方）
人生100年時代、介護予防に努め、いつまでも自分らしく、生き生きと暮らすことが大切です。そのために、身近な地域活動への参加を増やし、継続することが必要となります。その生活スタイルを周知するとともに、地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくりに取り組みます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">①</td><td>介護予防に関する認識の変革</td></tr>
<tr><td>85歳以上の高齢者に対し、「通いの場」である「いきいき百歳体操」と「認知症サロン」への参加促進を行い、フレイル予防につなげる。
市民向け講座などでフレイル予防に関する啓発・周知を進めフレイルの危険因子を持つ人等を早期に発見する取り組みを進める。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>高齢者が通える場があるまちづくり</td></tr>
<tr><td>介護予防への意識が高くない高齢者を通いの場に誘導するとともに、フレイル等で通いの場への参加が中断することを予防するための取り組みを充実させる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">センター記入欄</td><td>取り組みの状況</td><td colspan="2">①地域の健康講座や民生委員の定例会などで「通いの場」である「いきいき百歳体操」「認知症サロン」の効果について啓発し新規開拓にも努めています。
②「包括だより」で「いきいき百歳体操」の特集号を作成、地域で回覧しました。また、会場を定期的に訪問し、フレイルチェック、体力測定、健康講座等を行い、継続して支援しています。さらに「いきいき百歳体操交流会」を開催し、モチベーションが高まるように支援しています。</td></tr>
<tr><td>現在課題と感じていること</td><td colspan="2">・「いきいき百歳体操」「認知症サロン」の各グループ共に高齢化が進み、世話役の後継者が不足して存続が難しいところがあります。
・「通いの場」が地域的に偏在しており、歩いて通える場にない地域があります。</td></tr>
<tr><td>目標達成のための今後の取り組み</td><td colspan="2">・必要な人に情報提供できるように、地域資源として他に参加できる地域の通いの場（いきいき百歳体操・認知症サロン以外）を把握していきます。
・いきいき百歳体操、認知症サロンの長期欠席者の情報を把握し、欠席理由の課題を把握し、再開に向けて支援していきます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価調査者記入欄</td><td>評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点</td><td colspan="2">各地域のいきいき百歳体操や認知症サロンに3か月に1度訪問し、それぞれのグループごとに計画を立てて支援を実施されています。また、保健センターを会場として利用し、いきいき百歳体操の効果についての説明会を行っています。
集いの場では、あんしんサポーターがリーダー役を担ってくれている場所があり、協力を得られている場所があります。また、各地域のいきいき百歳体操のグループ同士で交流会が3月に行われています。</td></tr>
<tr><td>次のステップに向けた気づきや期待したい点</td><td colspan="2">集いの場がリーダーに依存してしまっており、後継者不足に対する具体的な支援体制の構築と実施が期待されます。また、あんしんサポーターが地域の中で活躍できる環境を整え、活動が活発化されることを期待します。</td></tr>
</table>

特定非営利活動法人　はりま総合福祉評価センター

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">評価項目・着眼点</td><td colspan="2">基本目標2：困りごとを地域全体で受け止める体制の構築</td></tr>
<tr><td colspan="2">（基本的な考え方）
日常生活圏域単位に市民に身近な場所への地域包括支援センターの設置を継続し、地域の高齢者、その介護者の生活スタイルに対応できる相談体制の強化を行います。困りごとを抱える高齢者やその家族への支援を行う中で、地域共生社会の実現に向けて、他との連携を進めていきます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">①</td><td>地域包括支援センターの相談機能強化</td></tr>
<tr><td>地域包括支援センターの専門性を活かした相談機能を強化する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>世代や分野を超えた地域のつながりの構築</td></tr>
<tr><td>地域共生社会の実現に向け他分野との連携を強化する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">センター記入欄</td><td>取り組みの状況</td><td colspan="2">①支援困難な方には、迅速かつ継続的なフォローアップを行うことで信頼関係を構築し、必要に応じて対策の修正を行っています。
・自身の専門知識や経験を継続させるために、研修や連絡会で新たな技術や手法を学び、より効果的な支援を提供できるように取り組んでいる。
・所内の他職種連携により、複数の視点や意見を取り入れ、より専門性の高い支援や解決策を見出せるように務めている。
②民生委員定例会や地区別懇談会で民生委員や地域のケアマネジャーと顔の見える関係を築き、より良い支援につながるよう連携を強化しています。</td></tr>
<tr><td>現在課題と感じていること</td><td colspan="2">・無国籍や無年金、虐待など、相談内容が複雑化しているケースが見受けられます。特に生活保護世帯に対する支援も多く、支援内容も広範囲になっています。法律や制度に阻まれることもあり、専門家の方々の意見や助言を受けながら一歩づつ前に進んでいるのが現状です。</td></tr>
<tr><td>目標達成のための今後の取り組み</td><td colspan="2">・専門性を向上させるための研修や連絡会に積極的に参加することで、スキルや知識を磨き、課題解決力を高めていきます。また、実践的な経験を積むことで、さらに専門性を強化していきます。
・姫路市の関係部署や地域の関係機関と連携して、相談機能の強化を図っていきます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価調査者記入欄</td><td>評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点</td><td colspan="2">校区ごとにエリア担当2名を配置し、集中して支援を実施することで民生委員や地域の方を担当されているケアマネジャーの方との連携が取りやすい体制が作られています。また、専門職とも協働できるように体制の確保がなされており、専門性の求められる相談に対応しやすいようにしています。困難ケース対応においても、家庭裁判所や警察などの関係機関との連携がとりやすくなっています。</td></tr>
<tr><td>次のステップに向けた気づきや期待したい点</td><td colspan="2">地域の中の困りごとを自主的及び能動的に情報収集し、積極的に把握する取り組みが実施される体制の構築が期待されます。また、相談対応時のマニュアルの整備や、フローチャートを作成し標準的な対応が行いやすいように業務の整理に期待します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="7">評価項目・着眼点</td><td colspan="2">基本目標3：地域で暮らし続けるための支援の充実</td></tr>
<tr><td colspan="2">虚弱・軽度要介護者の重度化防止、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用を図ります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">①</td><td>多様なサービスの活用</td></tr>
<tr><td>地域の通いの場や多様な主体で展開される介護予防生活支援サービス、在宅医療・介護の連携体制及び認知症高齢者等への支援に係るサービス(地域支援事業)を効果的に活用する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>地域活動への住民参加や支援体制整備のための取り組み</td></tr>
<tr><td>地域ケア会議推進事業、生活支援体制整備事業、通いの場の充実、認知症の人への支援などの取り組みを通して地域の支援体制の充実を図っていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③</td><td>地域社会資源の開発とネットワークのための取り組み</td></tr>
<tr><td>高齢者が地域で暮らし続けるための社会資源を開拓していくとともに社会資源との連携が出来るようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">センター記入欄</td><td>取り組みの状況</td><td colspan="2">①介護サービスの担当者会議では、地域の通いの場など多様なサービスの情報提供を行っています。また、認知症のある方に対して、認知症初期集中支援事業を活用し、多職種からの意見を伺い支援の方向性を検討しています。②生活支援体制検討会議により、自治会や民生委員、関係機関との連携を強め、情報提供や協力体制の構築につながるよう取り組んでいます。③圏域内のケアマネジャーの資質向上をはかるために、ブロック研修を実施し、その際に個別ケースの相談支援に生かせるよう地域の社会資源の情報を集約し提供しています。</td></tr>
<tr><td>現在課題と感じていること</td><td colspan="2">・認知症の独居高齢者の相談が多く、キーパーソンがいなかったり、遠方だったりと介護の担い手不足や地域に活用できるサービスや資源も少ないため、選択できるサービスが限られています。
・通院や買物に同行してくれる介護者がいないため困られるなど既存のサービスでは対応できないケースもあります。</td></tr>
<tr><td>目標達成のための今後の取り組み</td><td colspan="2">・地域内での連携の強化のため生活支援体制検討会議を自治会と民生委員など地域のキーパーソンと合同で実施できるよう調整しています。
・自治会や民生委員、地域の人たちとの交流を積極的に行うとともに、必要な時は、地域支えあい会議を実施して連携をはかりながら、地域での困りごとについて、一緒に考える機会を増やせるよう努めます。
・地域の通いの場での介護予防事業を実施し、講演等によりフレイル・認知症予防を地域住民へ周知していきます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価調査者記入欄</td><td>評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点</td><td colspan="2">公民館や地域の集会所で自主的に実施されている活動をリスト化して整理し、周知されています。また、包括だよりは公民館に掲示しているほか、各自治体にて回覧され戸別に目の届くようにされており、今後は医療機関でも配布や掲示を検討しています。
通いの場でのフレイルチェックは、参加者の8割の方に実施できており、読み上げや解説を行うことで理解を深める取り組みがなされています。</td></tr>
<tr><td>次のステップに向けた気づきや期待したい点</td><td colspan="2">地域的に利用できるサービスが限られており、多様な課題に対してのアプローチの幅を広げるための取り組みが期待されます。また、法人の強みを活かしての活動や、支援体制の充実を期待します。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="7">評価項目・着眼点</td><td colspan="2">基本目標4：認知症とともに暮らす地域の実現</td></tr>
<tr><td colspan="2">認知症は誰もがなりうるものであり、認知症になっても、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指します。また、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防（認知症になるのを遅らせる。認知症になっても進行を緩やかにする）に関する取り組みを推進します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">①</td><td>認知症にやさしい地域づくり</td></tr>
<tr><td>認知症サポーターが地域で活躍できる機会の充実を図る。認知症の人本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場を設置する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td>認知症になるのを遅らせるための取り組み</td></tr>
<tr><td>高齢者が身近に通える場等の拡充。通いの場を活用し、認知機能低下がある人や、認知症の人に対して、早期発見・早期対応が行えるよう、医療機関とも連携した支援体制の整備。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③</td><td>認知症になっても地域で暮らし続けるための取り組み</td></tr>
<tr><td>認知症の類型や進行段階、生活環境に応じた適時・適切な医療・介護に提供が出来るようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">センター記入欄</td><td>取り組みの状況</td><td>①夢前町内の置塩・菅野中学校の生徒を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の正しい理解や接し方や心構えについて説明しました。
②認知症サロン11か所の運営支援を行うと共に、認知症サロンや地域の通いの場に対して認知症に関する講話や勉強会を行い認知症への理解を促しています。
③対応が困難な事例に対しては、初期集中支援事業を活用して多職種で検討し、より良い支援ができるよう取り組んでいます。</td></tr>
<tr><td>現在課題と感じていること</td><td>・認知症の原因や認知症症状への理解が不十分で偏見をもたれている方が多く、その為、隠そうとするケースがあります。 また、認知症の対応がわからず、介護に疲弊している家族もあります。
・通いの場までの移動が困難で参加者が増えず、またお世話役の方が高齢で後継者がいないという問題があります。</td></tr>
<tr><td>目標達成のための今後の取り組み</td><td>・引き続き通いの場の運営を支援し、認知症に関する勉強会や、認知症サポーター養成講座の開催をしていきます。
・地域住民に対して認知症の理解を深め認知症の人でも地域で安心して生活できるよう啓発活動を行い、早期発見、対応ができるように支援します。
・認知症相談に対して、適切な事業や制度の活用に繋げていきます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価調査者記入欄</td><td>評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点</td><td>中学校2か所で1年生を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、こども達に認知症の理解を深める活動を行っています。他地域の包括支援センターとは、担当毎に年に1回、市の全体会で年に3回情報共有の場があり、意見交換などを行っています。認知症サロンでは、生活支援体制検討会議も併せて実施されています。</td></tr>
<tr><td>次のステップに向けた気づきや期待したい点</td><td>中学校での認知症サポーター養成講座へのPTAの参加を検討するなど、幅広い世代に対する認知症への理解を促す取り組みに期待します。また、企業などの地域資源とのタイアップやコラボレートし、地域全体の認知症理解が深まる活動が実施されることに期待します。</td></tr>
</table>